

デイリー・コンサイス

中日辞典

外研社・实用汉日词典

外语教学与研究出版社
三省堂

实用汉日词典

デイリーコンサイス中日辞典

(日)杉本達夫

(日)牧田英二

(日)古屋昭弘

共編

外语教学与研究出版社

三省堂

(京)新登字 155 号

京权图字: 01 - 2000 - 0324

图书在版编目(CIP)数据

实用汉日词典/(日)杉本达夫, 牧田英二, 古屋昭弘编. - 北京: 外语教学与研究出版社, 2000. 12

ISBN 7 - 5600 - 2021 - 6

I. 实… II. ①杉… ②牧… ③古… III. ①日语 - 词典 ②对照词典 - 汉、日 IV. H366

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2000)第 69021 号

实用汉日词典

(日)杉本达夫等 编

* * *

责任编辑: 潘郁红

出版发行: 外语教学与研究出版社

社 址: 北京市西三环北路 19 号 (100089)

网 址: <http://www.fltrp.com.cn>

印 刷: 北京外国语大学印刷厂

开 本: 787×1092 1/48

印 张: 18 $\frac{40}{48}$

版 次: 2000 年 12 月第 1 版

2001 年 11 月第 2 次印刷

印 数: 11001—21000 册

书 号: ISBN 7 - 5600 - 2021 - 6/H·1088

定 价: 21.90 元

* * *

如有印刷、装订质量问题出版社负责调换

制售盗版必究 举报查实奖励

版权保护办公室举报电话: (010)68917519

序

外国語を学ぶ者の立場から言えば、辞典には不満が数々ある。誰しも2度や3度は辞典を罵った覚えがあろう。不満とは言いかえれば注文である。外国文献を前にして、心に生じるさまざまな疑問に、たちどころに答えてほしくなるのである。

単語の意味、発音から始まって、その単語がこれこれの語と結びつくか否か、これこれの場面で使えるか否か、これこれと言いかえてよいか否か、その社会で聞く者の心にどういう感情をひき起こすか、等々、疑問は連鎖的に生まれ、ひろがってゆく。1冊の辞典がそうした疑問をすべて解明してくれるなら、これほど便利なことはない。

だがそういう魔法は望むべくもない。辞典は、限られた紙幅に限られた情報を提供して、それぞれの特色を出すにとどまるだろう。

本辞典はご覧の通りの小型である。小型ではあるが「小而精」であることを目指した。机上に置く大部の辞典に比べれば、情報量は遠く及ばないが、随時携帯できる便利さに加えて、情報の質を選び、かつ機能面で幾つか工夫をこらしたことにより、いささか利用者のお役に立てるのではないかと、編者は自負している。

本辞典は現在の中国で日常的に使われていることばに主眼を置いている。旧時のことば、書面のことばも随時現れはするが、第一の着眼点はあくまで現在の用法であり、その視点から語彙を選び語義をつけ、用例を加えている。

本辞典は以下の点にとくに意を注いだ。

第1に、個々の漢字が単独で1語となりうるか、すなわち単用しうるか、それとも他の字と結びついてはじめて1語となりうるか、すなわち語素であるかの区別を明確に示した。1字の語義の中でも、単用しうる語義と単用しえない語義とを区別した。

第2に、原義に即して品詞を示した。

第3に、用例は極力短くするようつとめたうえで、それが単語ないし複合語であるか、句ないし文であるかを区別した。

第4に、形容詞のうち主として述語となる形容詞、主として修飾語となる形容詞について語義に先立ちその旨を明記するなど、用法上の注意を可能なかぎり加えた。

そのほか、限られた紙幅をより有効に使うべく工夫をこらしたつもりである。上記のうち第1点は、すでに幾つかの辞典で試みられているが、本辞典はそれを積極的に示した。もちろんことばは生きものであり、時と場合で変化する。上記のような区別も絶対のものではなく、あくまでひとつの目安であるにすぎない。し

かも編者の力量の範囲内での目安であることは言うまでもない。だが利用者の前進に有用な目安であると編者は考えている。

本辞典が幸いにして多くの読者を得、貴重なご批判、ご叱正を得られるよう、そして内容をたえず向上させてゆけるよう、編者は切に願っている。

言うまでもないことながら、先行する幾つもの中国語辞典（日中・中日）からは多大の教示を得ている。いちいち名は挙げないが、あらためて感謝する。

本辞典は原稿作製に際して以下の方々の参加を得た。

小川利康

岡崎由美

鈴木健之

内藤正子

山崎直樹

また和平女史にはインフォーマントとして終始一貫ご協力いただいた。

三省堂で編集を担当されたのは篠田益實、野村良平のお二人である。編者の作業が遅延して、ずいぶんのご苦勞を背負わせた。造事務所の面代真樹、堤弘次のお二人には編集作業でお世話になり、また劉迪氏にも中国人の目からする貴重な助言を頂戴した。

以上の方々に深く感謝する。

1997年12月

編者一同

序 言

大凡外语学习者，对辞典都会有各种各样的不满。大概谁都有那么几次骂过辞典的经历吧。所谓不满，换个角度说，就是愿望。面对外国文献，内心所萌生的那些疑问多么希望能立刻得到答复。

从单词的词义和发音，到该单词能否与这样那样的词组合，能否在如此这般的场合应用，能否如此这般地替换说法，在那种场合听者会有什么样的感触等等，疑问会一连串地产生，而且还会一直延续下去。如果一本辞典能够解决所有这些疑问的话，那就再好不过了。

但是，我们不应该指望辞典能有这种魔力。辞典也只能在有限的篇幅内提供有限的信息，并展示出各自的特色。

本辞典为小型辞典。版本虽小，但用意却在“小而精”上。与桌子上的大部头辞典相比，本辞典的信息量远远不及，但所选信息精准，而且在功能方面融合了一些窍门，再加上便于随身携带，编者自负本辞典对使用者会有所帮助的。

本辞典在选词上着眼于现今中国日常性的词语。尽管辞典中会不时出现一些旧词语以及书面语等，但着重点始终是词语的现在用法，并以此角度来筛选词汇，注释词义，附加例句。

本辞典有以下几个特色。

第一，明确了每个汉字是否都能单独成一词，即该汉字是可以单用还是必须与其它字组合后才能使用，也就是指明了是否是词素的这一区别。即使在单字的词义中，也对单用词和非单用词进行了区分。

第二，切合原义标注词类。

第三，例句力求精悍，并且还指明了该例句是单词还是复合词，是句子还是文章。

第四，形容词中主要作谓语的形容词以及主要作修饰语的形容词，在词义前尽可能地加附注，以示用法上的区别。

另外，本辞典在编排上力求有效地使用篇幅。前述中的第一点，尽管在一些辞典中被试用过了，但本辞典可谓积极地突出了这一特色。当然，语言是有生命力的，随时间和场合而变化。前述的种种区别也并非绝对的，其实也只不过是基准罢了。而且，不言而喻这是编者在力所能及的范围内的基准。但编者认为该基准是有益于使用者的。

编者殷切地希望本辞典能拥有很多读者，并能得到宝贵的批评和指正，以便在内容上不断地改进。

勿容置疑，本辞典也参考了几本已出版的中国语辞典(日中、中日)，从中得到了很多启发，在此就不一一列举，谨表感谢。

参加本辞典原稿制作的编者是：小川利康、冈崎由美、铃木健之、内藤正子和山崎直树。

另外，在资料提供方面，和平女士自始至终予以了协助。

担任本辞典的编辑是三省堂的筱田益实和野村良平两位。由于编者在编写过程中的延误，使得两位编辑备受辛苦。造事务所的面代真树和堤弘次两位在编辑加工方面给予了很大的帮助。另外，刘迪先生也从中国人的角度提出了珍贵的意见。

在此，对上述协助者表示诚致的感谢。

全体编者

1997 年 12 月

凡 例

I. 親字について

1. 親字は簡体字を基本として、そのローマ字表記のアルファベット順に配列した。親字に異体字がある場合と、親字が簡体字である場合には、() 内に異体字および繁体字を示した。
2. 「词」に対する「詞」、「銅」に対する「銅」など、偏旁のみが異なる繁体字も() に示してある。ただし、「京」に対する「京」、「角」に対する「角」などは記していない。また、異体字に簡体字と繁体字がある場合は簡体字のみ示した。
3. 単用される親字（一字で単語となりうる親字）は【 】で囲った。単用できない字は〔 〕で囲い、更に×印をつけた。この点は本辞典が、特に意を注いだところである。〔 〕で囲った親字は現代語ではもっぱら非単用の語素として機能する。すなわち他の語と組合わさってはじめて単語を形成するということである。その区分は日常的用法を念頭に置いた編者の判断による。この点に関しては、非単用の語素を積極的に明示した『現代漢語学習詞典』、『現代漢語用法詞典』、『Concise Dictionary of Spoken Chinese』（参考図書の項参照）から多大な教示を得た。
4. 【 】で囲んだ親字でも、単用できない語義の場合には、改行して×印を置き、その語義を示した。
5. 「廖」「沪」など、姓あるいは地名の別称や略称は単用語とみなさない。
6. 名詞、動詞、能願動詞、形容詞、副詞、介詞、量詞、数詞、感嘆詞のほか、接続詞、助詞、擬態語、擬声語として働く親字は、本辞典では単用出来る語として扱い、【 】で示した。
7. 個別の字義によって繁体字や異体字が異なる場合、あるいは個別の字義にのみ繁体字や異体字がある場合は、その都度改行し、別項目を立てた。例えば、

【里】^{li} ……

【一(裏・裡)】 ……

【历(歷)】^{li} × ……

【一(厯・曆・歷)】 × ……

8. 「彷徨」のように分離不可能な場合は、個別の字に語釈を加えず、「彷徨」の項で
 【彷徨】pánghuáng 動うろうろ迷う……と語釈を与え、「徨」の項では
 【徨】huáng × → 「彷徨 pánghuáng」とした。
9. 語頭に使われることが稀れな字（親字として採用していないこともある）については、基本義を記したのち、→〔○～〕で見出し語例を示した。例えば、
 【鈿(鈿)】diàn × …… → 「螺 luó ～」
 このほか親字の語釈の中で、その親字が始まる子見出しを示す場合、時に→〔○～〕を使った。
10. 異読音がある場合は、記述の最後に改行して「し○」と太字で示した。したがって異読音がある場合、同一の親字が複数箇所に現れる。ただし、ほとんど使われていない異読音は、親字として採用していないことも

ある。

Ⅱ. 子見出しについて

1. 子見出しには単語、連語、成語、俗語（ことわざ、歇後語など）を含み、ローマ字で表記した発音のアルファベット順に配列してある。
2. 発音綴りが同一の場合は第二字の四声の順による。
3. 単語（発音表記が一つの綴りとなる）のほか、連語（例えば「绕圈子 rào quānzi」）にも品詞を記したうえで語義を示した。
4. 同じ漢字表記でも、語義によって声調、発音表記が異なる場合は「」で改行して、別項目を立てた。例えば、

【编目】 biān¹mù 編 ……

—— biānmù 编 ……

5. 一語に複数の表記があり、使用頻度が大差がないものは、重複させて見出し語に立てた。例えば、

【叭儿狗（巴儿狗）】と【巴儿狗（叭儿狗）】。

Ⅲ. 発音について

1. 発音は漢語拼音字母すなわちローマ字表記で綴って声調符号を加えた。表記は原則として『現代漢語詞典 修訂本』（1996年）に準拠した。
2. 軽声には符号を加えていない。また、「一」「不」の声調は「一定」yídìng、「一起」yìqǐ；「不必」búbì、「不甘」bùgān のように実際の声調に合わせて記した。
3. 一語中のある音が軽声でもよい場合は、「」で切って両方を併記した。例えば、

【琵琶】 pí²pá/pí¹pá

4. 「3声+軽声」で示しながら、実際には「2声+軽声」で発音する場合は、（…と発音）を加えた。例えば、

【哪里】 nǎ³lǐ（ná²lǐと発音）

5. 動賓（動詞+賓語）構造の語で、分離可能な場合は、分離する位置に「¹」を入れて示した。例えば、

【睡觉】 shuì¹jiào 【来潮】 lái¹cháo

6. 連語、成語、俗語の発音は意味の単位ごとに分かち書きをした。区切りは『現代漢語詞典 修訂本』に拠るほかは編者の判断とした。

7. 方言語彙については「普通話（共通語）」の読音によって表記してある。

Ⅳ. 語釈について

1. 原則として名詞、動詞、形容詞、副詞、その他の順で記述し、①、②…で語義を分けた。
2. 品詞を特に分ける必要がない場合は①のようにまとめて、記述した。

3. 常用の名詞にはできるだけ量詞を示した。しかし、代表的な量詞であって、網羅的ではない。また、「个」を使う場合は示していない。

例：【河】〔条・道〕川。【机器】〔架・台〕機械。

4. 「儿」を加えられる語には、（～儿）で示した。なお、「子」をつけて成り立つ語は別見出しとした。

5. 形容詞の重ね型など「的」を加えて使われるものは、語義の前に（～的）を置いた。

6. 簡単な補足説明は（ ）内に記したが、必要に応じて、◆の後に語法的説明や百科的説明を加えた。

7. 短い語法的注意は『 』で示した。例えば、

『状語として』、『定語として』など。

8. ⑧は同意語、⑨は反意語、⑩は関連語を示す。
9. 語釈や説明文中に漢語語彙が入る場合は、‘ ’で囲んだ。例えば、
【汾酒】……山西省汾陽産の‘白酒’…
10. 語釈や説明中に見出し語を使う場合は「～」で代用した。
11. 成語、俗語は基本的に（ ）内に元義を示した。

V. 用例について

1. 用例は簡潔を心掛けた。用例が文あるいは句である場合は *…で示し、単語、連語、成語である場合は「…」で示して区別した。後者は準見出し語である。
2. 用例中に見出し語は「～」で代用した。
3. 訳文中に見出し語の語義語釈を使う場合には、「同前」で代用することもある。

VI. 略語について

略語は以下のように表示する。

1. 品詞… □でくくる。

名：名詞	動：動詞	能：能願動詞	形：形容詞
副：副詞	数：数詞	量：量詞（度量衡を含む）	代：代詞
介：介詞	接：接続詞	助：助詞	嘆：感嘆詞・間投詞
擬：擬態語・擬声語	頭：接頭辞		尾：接尾辞

2. 語の性格… 《 》で示す。

成：成語・格言	書：書面語・文言語・古語	口：口頭語
俗：俗語・歇後語・ことわざ	方：方言	翰：書簡語
謙：謙讓語	敬：敬語・敬称	挨：挨拶語
訳：音訳語	貶：貶義語	褒：褒義語
転：転義・比喻	旧：旧時（主として清末から民国期）の語	
略：略称	普：（方言に対する）共通語	

3. 分野… 【 】で示す。

化：化学	医：医学	植：植物	動：動物
鉱：鉱物	生：生物・生理	工：工業・技術	機：機械
軍：軍事	宗：宗教	哲：哲学	農：農業
畜：畜産	法：法律	経：経済	商：商業
薬：薬品・薬学・漢方薬		天：天文・気象	映：映画
衣：衣類・衣服・織物		報：報道	演：演芸
数：数学	体：体育・スポーツ	美：美術	音：音楽
地：地学・地理	建：土木・建築	人：人名	史：歴史
理：物理・理科	文：文学	語：言語・語法	民：民族
航：航空・航海	食：食品・料理	印：印刷	交：交通
図：図書	字：文字	魚：魚類	鳥：鳥類
虫：虫	貝：貝	電：電気・電機	

4. レーベルの順序

品詞、（～儿）（～的）、語の性格、分野、量詞の順で示した。

例：名（～儿）《方》【植】〔根〕

Ⅶ. 漢字検索表について

1. 本辞典は簡体字、繁体字、異体字を含めて約9000字を親字とした。
2. 検索表は文字を部首で分類し、部首ごとに筆画数順に配列した。
3. ページ数に発音も加えたが、発音辞典の機能を持たせたいと考えての措置である。

参考図書

主要なもののみ掲げる。

- 1 現代汉语词典（第2版）（中国社会科学院语言研究所词典编辑室；商务印书馆 1983）
同修订本（同；1996）
- 2 现代汉语词典补编（同；1989）
- 3 现代汉语频率词典（北京语言学院语言教学研究所；北京语言学院出版社 1986）
- 4 现代汉语学习词典（孙全洲主编；上海外语教育出版社 1995）
- 5 现代汉语用法词典（关龙华主编；江苏少年儿童出版社 1994）
- 6 现代汉语辞海（林杏光审定，倪文傑・张卫国・冀小军主编；人民出版社 1994）
- 7 汉英大辞典（吴光华主编；上海交通大学出版社 1993）
- 8 汉英词典（北京外国语学院《汉英词典》编纂组；商务印书馆 1978）
同修订版（北京外国语大学英语系词典组；外语教学与研究出版社 1995）
- 9 现代汉语八百词（吕叔湘主编；商务印书馆 1980）
- 10 中华成语大辞典（向光忠・李行健・刘松筠主编；吉林文史出版社 1986）
- 11 汉语拼音词汇（1989年 重编本）（汉语拼音词汇编写组；语文出版社 1991）
- 12 俗语五千条（邱崇丙；陕西人民出版社 1983）
- 13 *Concise Dictionary of Spoken Chinese*, by Yuen Ren Chao and Lien Sheng Yang, Harvard University Press, 1947; Seventh Printing, 1970

日本で出版された多くの中日辞典についても、いちいち名は挙げないが、多くの教示を得た。

凡 例

I. 单字条目

1. 单字条目以简体字为主,按拉丁字母的次序排列。在单字条目有异体字,或单字条目为简体字时,用()号表示异体字以及繁体字。

2. 与“词”相对应的“詞”、与“铜”相对应的“銅”等那样的只是偏旁不同的繁体字也用()号表示。但是,与“京”相对应的“京”、与“角”相对应的“角”等这样的未作表记。异体字既有简体字又有繁体字时,只表记简体字。

3. 单用单字条目(由一个字构成单词的单字条目)用【】号括起。非单用单字条目用〔〕号括起,另用记号⊗标出。这一点为本辞典的用心之处。用〔〕号括起的单字条目在现代汉语中专作非单用词素,即只有与其它词搭配后才能构成单词。其区分基准是由编者根据汉字的日常用法来判断的。关于这一点,编者从积极地明示了非单用词素的《现代汉语学习词典》、《现代汉语用法词典》、《Concise Dictionary of Spoken Chinese》(参照参考文献)中受益匪浅。

4. 即便是用【】号括起的单字条目,在词义不能单用时,另起一行并加注记号⊗后,再表记其词义。

5. 如“廖”、“沪”等姓或地名的别称以及略称,不当作单用词。

6. 除了名词、动词、意志动词、形容词、副词、介词、量词、数词和感叹词以外,作为接续词、助词、拟态词和拟声词而活用的单字条目,在本辞典中作为可单用词,并用【】号表示。

7. 在个别字因字义不同而繁体字或异体字也有不同,或只有个别字义才有繁体字或异体字时,均另起一行并分立义项。如:

【里】^{li}.....

【一(裏・裡)】.....

【历(歷)】^{li}⊗....

【一(厯・曆・歷)】[⊗]....

8. 像“彷徨”这样的两个字不能分离的场合,并不是给单个字加注释义,而是在“仿”的义项“【彷徨】 pánghuáng”之后释义“廻うろうろ迷う,……”,在“徨”的义项“【徨】 huáng”之后

标记“⊗→〔仿 ~ pánghuáng〕”。

9. 关于鲜被用作词头的字(也未曾被用作单字条目),在标记了其基本意义之后,用→〔○~〕的形式表示例词。如:〔铤(鈿)〕 diàn ⊗ …… →〔螺 luó ~〕。除此以外,在单字条目的释义中,在出示由其单字条目起头的多字条目时,偶尔也用→〔~○〕的形式。

10. 遇到多音字时,在注释的最后另起一行并用“⇨○”和黑体字表示。因此,在多音字的场合,同一个单字条目会在多处出现。但是,几乎没被采用过的多音字,也未曾被用作单字条目。

II. 多字条目

1. 多字条目包括单词、复合词、成语、俗词(谚语、歇后语等),按拉丁字母的次序排列。

2. 发音拼写相同时,按第二个字的四声次序排列。

3. 除单词(注音为一种拼写)外,复合词(如“绕圈子 rào quānzi”)也是在标注了词类之后再标记其词义的。

4. 即便是相同的汉字书写,因词义不同而声调、注音也不同时,用长划线“——”另起一行并分立义项。如:

【编目】 biān[▼]mù ㄅㄧㄢ ㄇㄨˋ ……

—— biān mù ㄅㄧㄢ ㄇㄨˋ ……

5. 同一个词有多种书写而且使用频度又相差不大的多字条目,分别列为互见条目。如:【叭儿狗(巴儿狗)】和【巴儿狗(叭儿狗)】。

III. 注音

1. 注音用汉语拼音字母即拉丁字母拼写并标注调号。原则上以《现代汉语词典(修订本)》(1996年)为标记基准。

2. 轻声字在注音时不加调号。此外,“一”和“不”的声调,如“一定”yídìng、“一起”yìqǐ;“不必”búbì、“不甘”bùgān所示,是结合实际声调而标注的。

3. 一词中的某发音可为轻声时,用斜线“/”隔开,并且两个都作标记。如:

【琵琶】 pípá/pípa

4. 在标注的拼音为“3声+轻声”,而实际上又按“2声+轻声”发音时,加注(……と发音)。如:

【哪里】 nǎli(náli と发音)

5. 在动宾结构(动词+宾语)词组中,两者可分离时,在分离处加进“[▼]”来表示。如:

【睡觉】 shuì[▼]jiào

【来潮】 lái[▼]cháo

6. 复合词、成语和俗词的注音,是按语义的节点断开标注的,其断节基准除依据《现代汉语词典(修订本)》以外,还凭编者自我判断。

7. 方言词语按“普通话”的读音标注。

IV. 释义

1. 释义原则上按名词、动词、形容词、副词以及其它词的顺序排列,并用①,②……表示义项。

2. 在无需特别区分词类时,像“㊦㊧”那样集中性地注释。

3. 在常用的名词中,尽可能给出量词。但标出的均为代表性的量词,并未网罗全部。量词为“个”时,并不表记其“个”字。如:

【河】〔条·道〕川

【机器】〔架·台〕机械

4. “儿”化的词,用(~儿)的形式表示。加“子”后构成的词,自成条目。

5. 像形容词的重叠式这样的需附加“的”的条目,在释义前加注(~的)。

6. 简单的补充说明在()号内表记,但根据需要,在◆之后加注语法或百科知识的说明。

7. 简短的语法性解析用『 』表示。如:『状語として』、『定語として』等。

8. ㊦表示同义词,㊧表示反义词,㊨表示关联词。

9. 在释义或说明文中出现汉语词时,用‘ ’括起。如:

【汾酒】……山西省汾陽産の‘白酒’……

10. 在释义或说明中引用条目时,用“~”代替。

11. 成语和俗语基本上都在(>)号内附注原义。

V. 例句

1. 例句力求精悍。例句为文章或句子时用*……表示,为单词、复合词或成语时则用[]号括起以示区别。后者是非正式条目。

2. 例句中的条目,用“~”代替。

3. 在译文中引用条目的词义或释义时,有时也用“同前”代替。

VI. 略语

1. 词类(用□括起)

名:名词

动:动词

能:意志动词

形:形容词

副:副词	数:数词
量:量词(包括计量词)	代:代词
介:介词	接:接续词
助:助词	叹:感叹词、间投词
拟:拟态词、拟声词	头:接头词
尾:接尾词	

2. 语言风格(用《 》表示)

成:成语、格言	书:书面语、文言、古语
口:口语	俗:俗语、歇后语、谚语
方:方言	翰:书信用语
谦:谦让语	敬:敬语、敬称
挨:寒暄语	译:音译词
贬:贬义词	褒:褒义词
转:转义、比喻	旧:旧时用语(主要指清末到民国期间的用语)
略:略称	
普:普通话	

3. 所属学科(用[]表示)

化:化学	医:医学
植:植物	动:动物
矿:矿物	生:生物、生理
工:工业、技术	机:机械
军:军事	宗:宗教
哲:哲学	农:农业
畜:畜产	法:法律
经:经济	商:商业
药:药品、药学、中药	天:天文、气象
映:电影	衣:衣服、纺织品
报:报道	演:表演艺术
数:数学	体:体育
美:美术	音:音乐
地:地学、地理	建:土木、建筑
人:人名	史:历史
理:物理、理科	文:文学
语:语言、语法	民:民族
航:航空、航海	食:食品、烹调
印:印刷	交:交通
图:图书	字:文字
鱼:鱼类	鸟:鸟类
虫:虫类	贝:贝类
电:电气、电机	

4. 标记顺序

标记按词类、(～儿)(～的)、语言风格、所属学科、量词的顺序排列。如：

盆(～儿)《方》〔植物〕〔根〕

VII. 部首检字表

1. 本辞典中所收单字条目,包括简体字、繁体字和异体字,共约 9000 条。
2. 检字表用部首分类文字,部首次序按笔画数目多少排列。
3. 所有的文字都附有注音,意使本辞典还具有发音功能。

参 考 文 献

1. 现代汉语词典(第 2 版)(中国社会科学院语言研究所词典编辑室;商务印书馆 1983)
同修订本(同;1996)
2. 现代汉语词典补编(同;1989)
3. 现代汉语频率词典(北京语言学院语言教学研究所;北京语言学院出版社 1986)
4. 现代汉语学习词典(孙全洲主编;上海外语教育出版社 1995)
5. 现代汉语用法词典(关龙华主编;江苏少年儿童出版社 1994)
6. 现代汉语辞海(林杏光审定,倪文杰、张卫国、冀小军主编;人民中国出版社 1994)
7. 汉英大辞典(吴光华主编;上海交通大学出版社 1993)
8. 汉英词典(北京外国语学院《汉英词典》编纂组;商务印书馆 1978)
同修订版(北京外国语学院英语系词典组;外语教学与研究出版社 1995)
9. 现代汉语八百词(吕淑湘主编;商务印书馆 1980)
10. 中华成语大辞典(向光忠、李行健、刘松筠主编;吉林文史出版社 1986)
11. 汉语拼音词汇(1989 年 重编本)(《汉语拼音词汇》编写组;语文出版社 1991)
12. 俗语五千条(邱崇丙;陕西人民出版社 1983)
13. *Concise Dictionary of Spoken Chinese*, by Yuen Ren Chao and Lin Sheng Yang, Harvard University Press, 1947; Seventh Printing, 1970

上述列出的只是一些主要的参考文献。本辞典在编纂过程中,参考了许多在日本出版的中日辞典并获许多益处,在此就不一一列举,谨表感谢。

発音解説

◎声母 (ローマ字の下: 左は注音符号, 右は国際音声記号 (簡略式))

b	p	m	f	d	t	n	l
ㄅ[p]	ㄆ[p']	ㄇ[m]	ㄈ[f]	ㄊ[t]	ㄊ[t']	ㄋ[n]	ㄌ[l]

g	k	h	j	q	x
ㄍ[k]	ㄎ[k']	ㄏ[h]	ㄐ[tɕ]	ㄑ[tɕ']	ㄒ[ɕ]

zh	ch	sh	r	z	c	s
ㄓ[ʈʂ]	ㄔ[ʈʂ']	ㄕ[ʂ]	ㄖ[r]	ㄗ[ʈʂ]	ㄘ[ʈʂ']	ㄙ[s]

◎韻母

	i	u	ü
	ㄟ[i]	ㄨ[u]	ㄩ[y]
a	ia	ua	
ㄚ[a]	ㄣ[ia]	ㄨㄚ[ua]	
o		uo	
ㄛ[o]		ㄨㄛ[uo]	
e	ie		üe
ㄝ[e]	ㄟ[ie]		ㄩㄝ[üe]
ai		uai	
ㄞ[ai]		ㄨㄞ[uai]	
ei		uei	
ㄟ[ei]		ㄨㄟ[uei]	
ao	iao		
ㄠ[ao]	ㄣㄠ[iao]		
ou	iou		
ㄡ[ou]	ㄣㄡ[iou]		
an	ian	uan	üan
ㄢ[an]	ㄣㄢ[ien]	ㄨㄢ[uan]	ㄩㄢ[yan]
en	in	uen	ün
ㄣ[ən]	ㄣ[in]	ㄨㄣ[uən]	ㄩㄣ[yn]
ang	iang	uang	
ㄤ[ɑŋ]	ㄣㄤ[iɑŋ]	ㄨㄤ[uɑŋ]	
eng	ing	ueng	
ㄥ[ɤŋ]	ㄣㄥ[iŋ]	ㄨㄥ[uɤŋ]	
ong	iong		
ㄨㄥ[ʊŋ]	ㄣㄨㄥ[iʊŋ]		

◎声調

第1声 (陰平)	第2声 (陽平)	第3声 (上声)	第4声 (去声)
—	↗	↘	↘

注意 ① 第3声と第3声が続くと原則として第2声+第3声となる。

② 声調符号のないものは轻声 (軽く弱い声調)。第3声のあとでは高く、第1・2・4声のあとでは低く発音される。